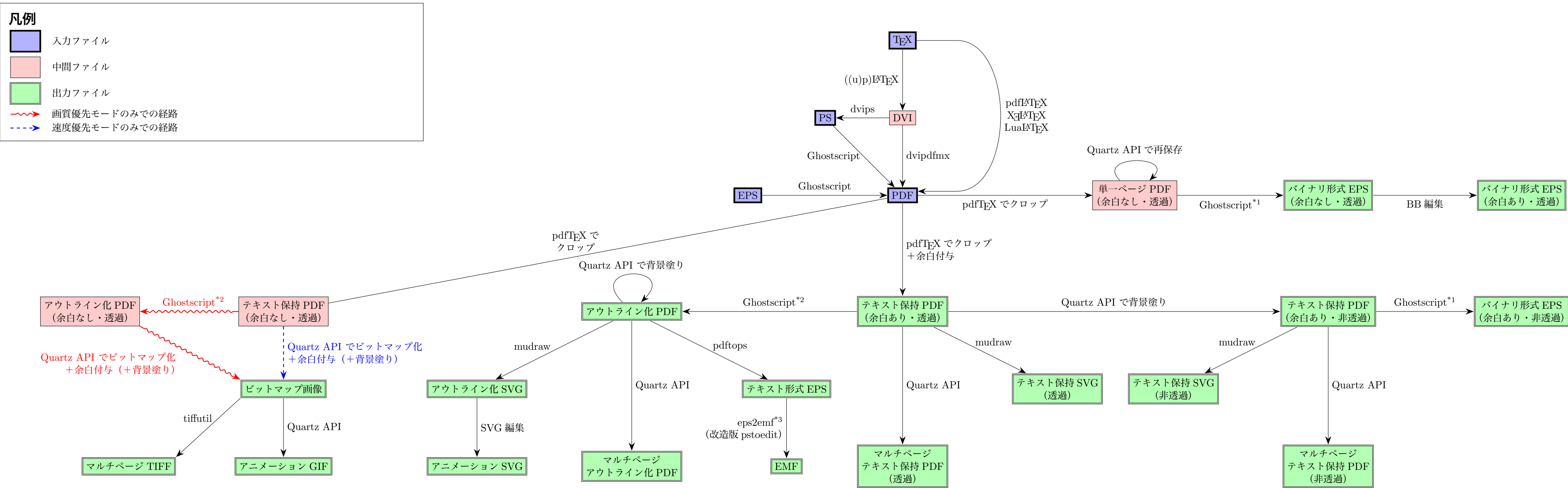


Ghostscript 9.15 以上を利用している場合



補足情報

- [*1] の Ghostscript 実行においては、eps2write デバイスが用いられる。
- [*2] の Ghostscript 実行においては、pdfwrite デバイスが用いられる。
- [*1] および [*2] の Ghostscript 実行における `-r` オプションの値は、画質優先モードでは 20016 固定、速度優先モードでは解像度レベル設定に従う。
- [*1] の Ghostscript 実行においては、出力される EPS の BoundingBox 値が誤っている場合がある。そこで、eps2write で生成された EPS に対しては、Ghostscript の bbox デバイスで取得される BoundingBox 値によって常に上書きするようにしている。
- [*3] の eps2emf 実行前に、パスのアウトライン化を行うように生成 EPS を加工しておく。
- 「元のページサイズを維持」が ON の場合、[*1] の Ghostscript 実行においては、出力される EPS の BB 値を、変換前の PDF の指定された PageBox の値で上書きする。
- 「元のページサイズを維持」が ON の場合、「pdfTeX でクロップ」の過程では、変換前の PDF の指定された PageBox（余白付与の場合はそれに余白を加えたもの）を MediaBox にした PDF（左下が原点、他の Box は非明示）を生成する。
- Ghostscript の eps2write デバイスは、TikZ の shadows ライブラリを用いた場合など、特定の種類の図は苦手としている。Ghostscript 9.15 以上の eps2write デバイスの場合は、ぼやけたビットマップ画像にされてしまう。そのような図は、Ghostscript によって綺麗にアウトライン化することはできないので、Ghostscript を経由しない経路（PDF, SVG, ビットマップ画像）で代用できないか検討してほしい。
- 余白は原則として bp 単位が用いられるが、設定で px 単位を選んでいて、かつビットマップ画像出力の場合は、Quartz API によるビットマップ化実行時に px 単位の余白が付与される。

